第１回　輪島塗の若手人材の養成施設の整備等に関する基本構想策定委員会

石　川　県

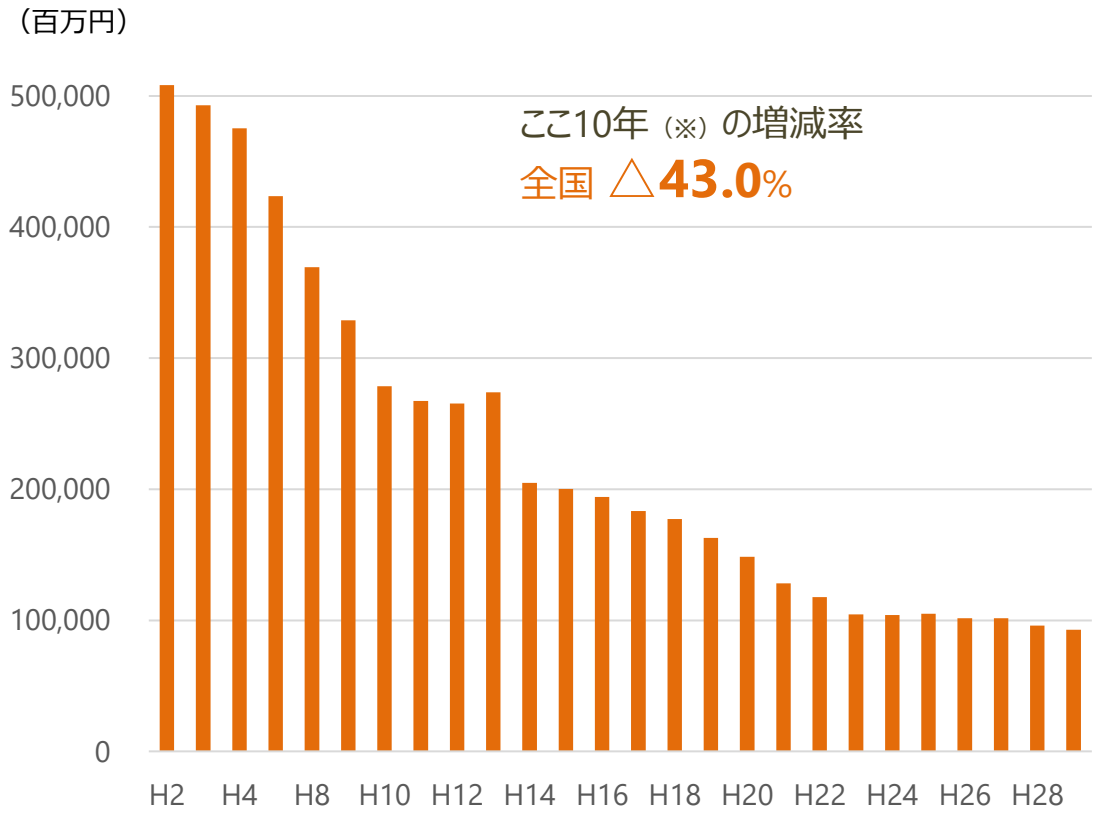
令和７年４月１０日

① 伝統的工芸品産業の現状（生産額・従事者数の推移等）について

○ 生活様式の変化に伴う需要の減少等により、全国の伝統的工芸品の生産額は、平成以降、減少している。
○ 本県も同様、平成２年の１，０６７億円をピークに減少を続けている。

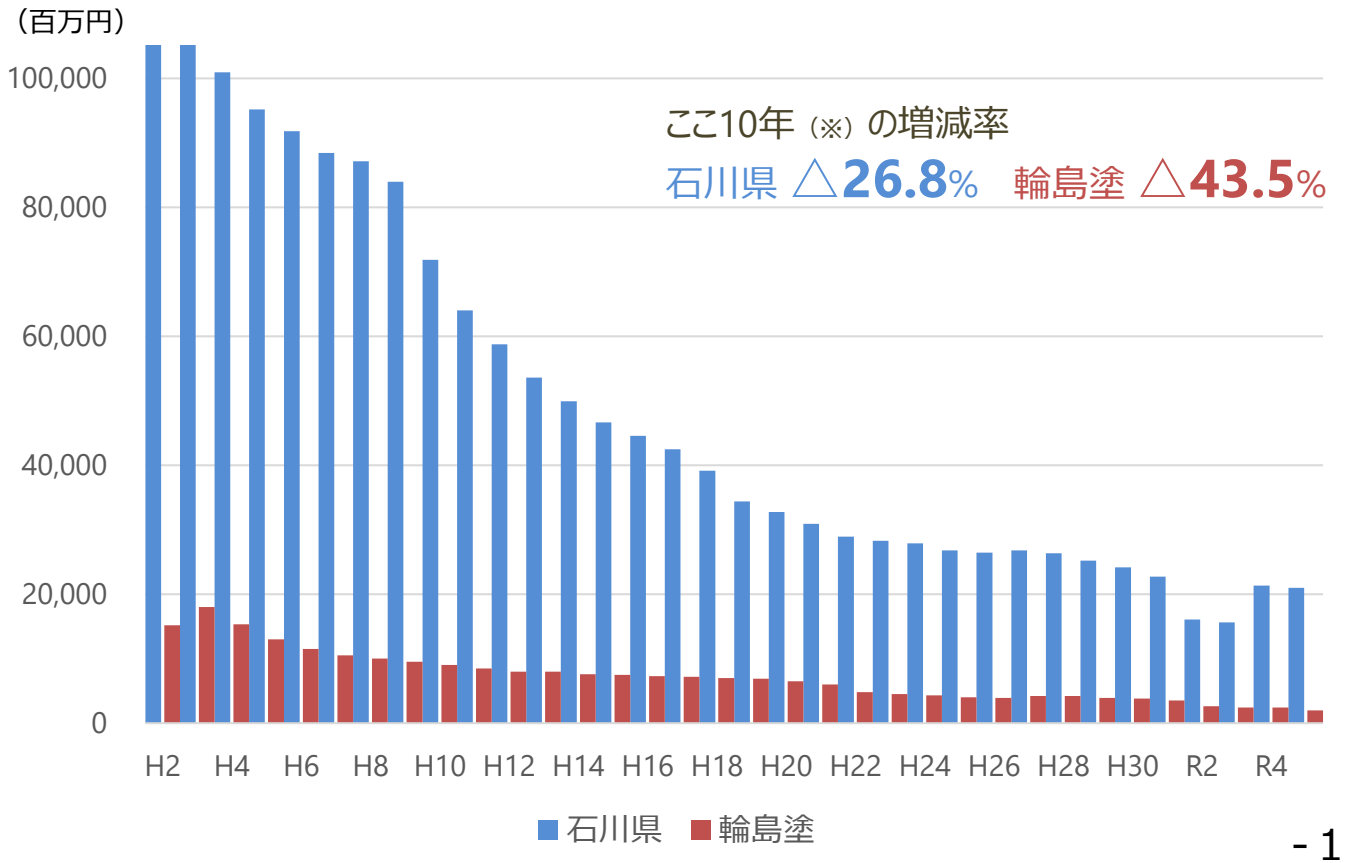
※「全国」の生産額が把握されているH19～H29を比較

■ 全国の伝統的工芸品の生産額の推移



出展：一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、石川県伝統的工芸品生産額等調査

■ 石川県の伝統的工芸品及び輪島塗の生産額の推移

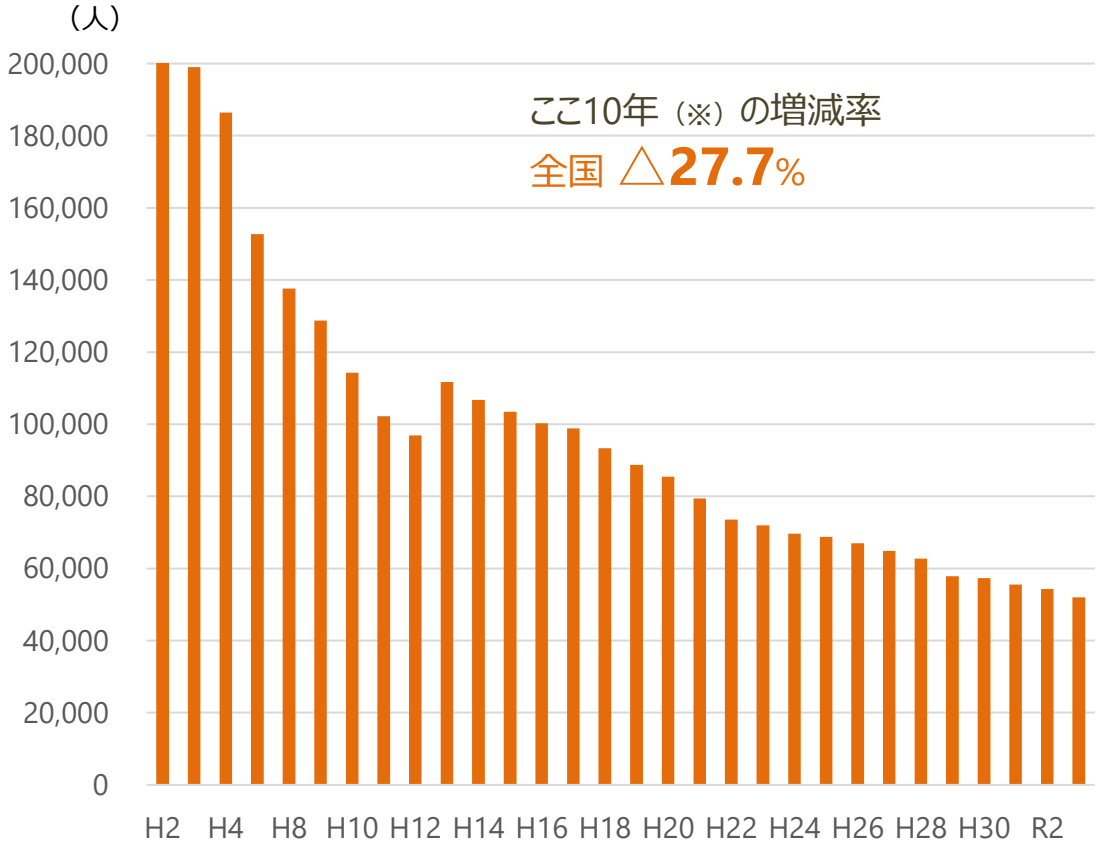


① 伝統的工芸品産業の現状（生産額・従事者数の推移等）について

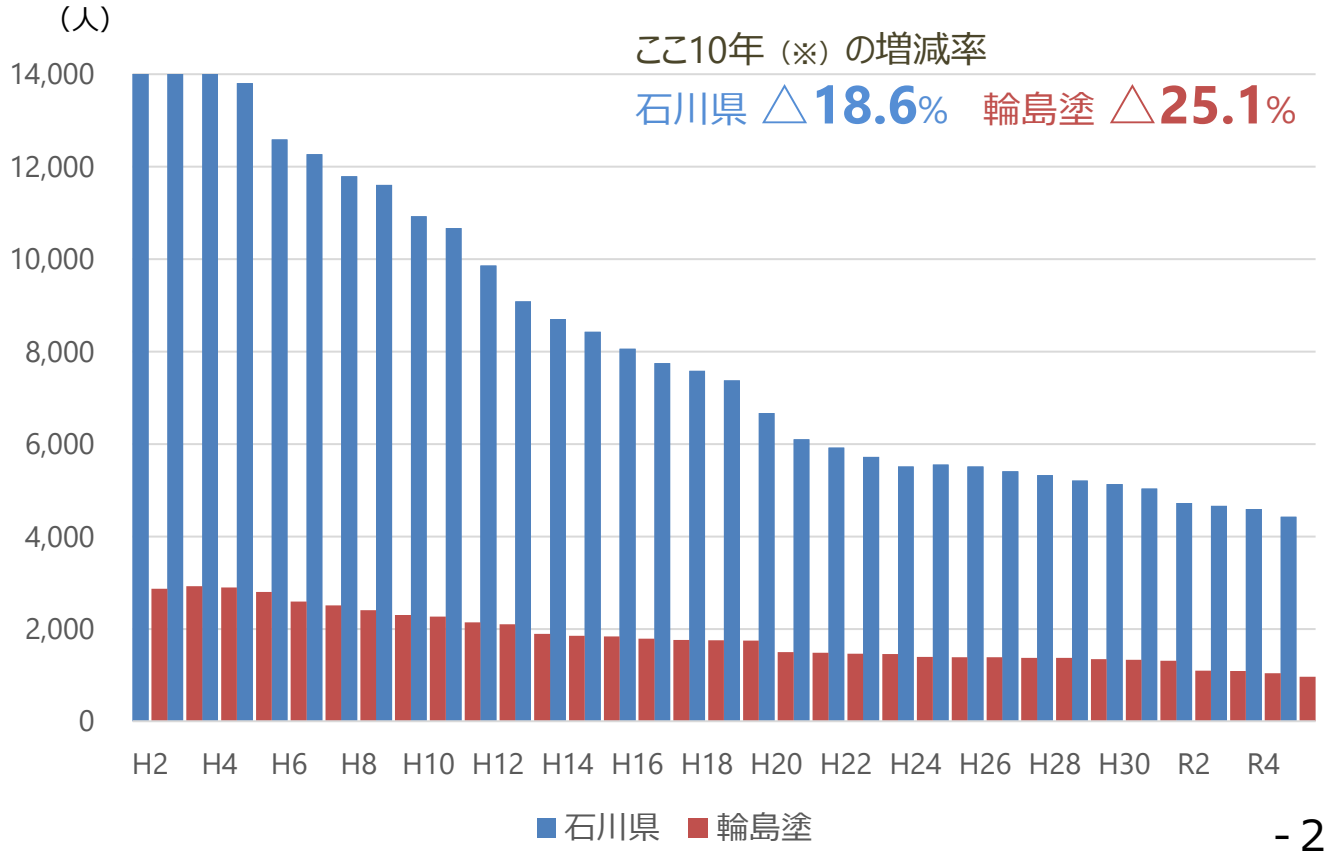
○ 生産額の減少に伴い従事者数についても減少傾向が継続している。

※「全国」の従事者数が把握されているH23～R3を比較

■ 全国の伝統的工芸品産業の従事者数の推移



■ 石川県の伝統的工芸品及び輪島塗の従事者数の推移



出展：一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会、石川県伝統的工芸品生産額等調査

② 輪島塗の次世代を担う「若手人材育成プロジェクト」の目的・方向性等について

輪島塗の現状

○ **我が国を代表する伝統的工芸品**であり、**能登の重要な地場産業である輪島塗**は、**能登半島地震に加え、奥能登豪雨の二重災害により甚大な被害**

○ 組合によれば、特に**若い世代の作り手が将来に不安を感じ、輪島から離れることを考えている者が多く**、このままでは、**輪島塗産地が消滅することが危惧**

○ **近年、輪島塗事業者（塗師屋※）**においては、**若手の作り手を育成する余裕がなくなっている**（いわゆる「年季」という修業を行う塗師屋はごくわずか）

※塗師屋：製品の企画・開発から製造・販売までを統括する輪島塗の総合プロデューサー。自社の職人や外注等により100以上の製造工程を取りまとめ、ひとつの製品を仕上げる。

プロジェクトの目的

官民と産地が共同して、**輪島塗を支える若手人材を育成**することで**若者を呼び込み**、
さらには、国内はもとより、**海外に輪島塗を発信！　輪島塗の新たな世界を切り拓く**

→これまで、石川県、輪島市、経済産業省、輪島漆器商工業協同組合など輪島塗事業者、
北國新聞社、読売新聞社、日本政策投資銀行からなるワーキンググループで検討

② 輪島塗の次世代を担う「若手人材育成プロジェクト」の目的・方向性等について

プロジェクトの方向性① 輪島塗の若手人材の養成施設の創設を検討

○ 対象者：**年5人程度、概ね40歳以下の若者（養成期間は2年）**を想定

○ 技術面のみならず、**現代の生活様式に合った新商品開発、海外市場の開拓ができる人材養成**を想定

→全国で工芸品の新商品開発に実績のあるデザイナー、海外のバイヤーや専門家等による講義

○ 施設内で、**生徒による作品展示、観光客向けに工芸品の製作体験ができるワークショップ等**の実施を想定

○ 場所は、**輪島漆芸美術館、輪島漆芸技術研修所、輪島漆器商工業協同組合の精漆工場が立地するゾーン内**を想定

○ 施設で学ぶ**生徒のための住まいの確保**を想定

プロジェクトの方向性② 卒業生の雇用の促進を検討

○ **養成施設の卒業生が従事する輪島塗事業者に奨励金の交付(卒業後３年間)**を想定